

「個別支援シート」の記入上の留意点及び記入例

氏名() 実施日：平成 年 月 日()
 記入者名：

	学習面	心理・社会面 (人間関係、性格・特徴)	進路面 (得意なこと、趣味、将来の夢、進路希望)	健康面 言語・運動面	家庭生活
現在の状況	いいところ ・自分で計画を立てて学習に取り組んでいる。 ・読書をする。	いいところ	いいところ ・英検4級 ・漢字検定5級 ・絵、習字が得意 ・進学を希望	いいところ ・卓球、テニスが上手になってきた。 ・少しずつ会話をするようになった。	いいところ 家庭外の支援者から見ての「家庭」ではない。主観的なことではなく、情報をもとに記入する。
今まで行った、あるいは今行っている支援とその結果	気になるところ ・人と接するときの緊張感の高さ。 ・自分の意見や考えをはっきりいわない。 ・困ったときには、そのような仕草をする。	気になるところ ・ため息をつくことが少なくなった。 ・笑顔がみえてきた。	気になるところ ・進路面で、本人、保護者の考えの違いはどうなのか。	気になるところ ・食が細い。	いいところは、抽象的な表現より、事実からの具体的な事柄を書きたい。
考慮する事項	下段の支援案に対応できるように、具体的な事を書く。	・1対1で会話するときの留意点(本人の気持ちを代弁しながら話す、話をするのをゆったりと待つ)	・英検、漢字検定受験の勧めと合格時の賞賛。	前回作成した支援シートをもとにして、「[支援方針]のために[具体的な支援]を行い、[その結果、子どもがどうだったか]」を記入する。	
支援方針	この時点での目標と方針 安心して自己主張や自己表現ができるようになる。 ・リラックスして過ごせる雰囲気づくり ・実習活動を通して、自由な表現を保障する。				
支援案	支援として何を行うか 午前中の活動で取り組んでいることを認める。	子どものベースにあわせてかわっていく(昼休みの散歩、集団活動の中で、)	進路関係の日程を把握し、子どもの状況に応じて伝える。(子どもに進路面についての話をするかどうかは、十分検討してから行う)	テニスや卓球に誘う。	ここで考えることは、自分ができる支援ということ。他の支援者に考えてほしいこと、やってほしいことがあっても書かない。
誰が行うか	適応教室指導員	適応教室指導員	適応教室指導員	適応教室指導員	
いつからいつまで行うか	1学期中		年間通して		
支援のために必要な連携	担任、保護者		担任		

それぞれの具体的な支援案で、ぜひ協力してほしい人を書く。連携すればより効果があると考えられるため。